

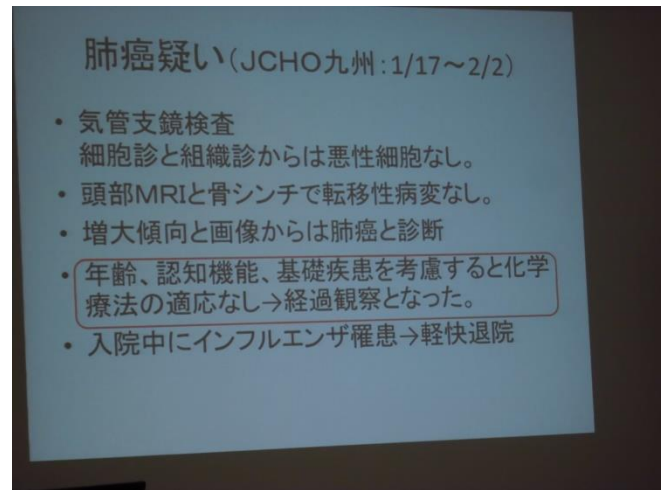
教育研修会

日時：R1 年 6 月 18 日（火） 17 時 00 分から 17 時 30 分

場所：新王子病院 4F 会議室A

テーマ：急性動脈閉塞症による下肢切断術を施行された症例

講師：済生会八幡総合病院 腎センター 西原 学宣先生



H31. 2 月透析中にイレウス発症し九州病院に緊急入院。閉塞性黄疸・総胆管結石・胆石性胆嚢炎と診断され治療されていました。入院経過中、下肢急性動脈閉塞にて 3/5 済生会血管外科へ転院。左大腿切断術施行後、呼吸状態が悪化、経過不良にて 3/20 永眠された症例です。このケースにおいては切断術を施行したら 10~20% 死亡。しなければ 100% 死亡ということでした。今回の症例で講師の先生は、鳥の目・虫の目・魚の目という言葉が言われていました。誰かが鳥の目を持っていればこの患者はもっと安らかな死があったのかもしれない。誰かがどこかで止められなかったのか？と言われており、このケースは虫の目にあるとの事でした。興味がある方は一度意味を調べてみてはいかがでしょうか、なるほど感じるかもしれません。